

「団長ちゃん大丈夫？  
お顔が赤いよ？お姉さんのベストで少しお休みする？」

「うん…そんなじゃない…大丈夫」

「ゴキゴキ」

「そっか…  
何かあったらお姉さん「アロ」ってね」





「ん？団長ちゃんもしかして…  
そっかそっかだったんだ…」

「お姉さんで良かったら  
一緒にお手伝いしてあげようか？」

「え…やりのや  
でも…恥ずかしい…」

「てんぐん  
誰にも言わないよ♪  
二人だけの秘密にしよう♡  
それにやさしくするから大丈夫♪」

「団長ちゃんのが  
大きくなってる…」

あゝ

あゝ



「スポンの上からでもわかるくらいにはちみねさんって♡  
うふふ♡団長ちゃんかわいい♡  
いっぱいかわいがってあげるね♡」

あゝ

あゝ

わわ。

わわ。

「お姉ちゃん気持ちいい...」

「はいはい♡」

「こんなにして我慢できなかつたんだね♡」



「スポンおろしちやおっか♡  
団長ちゃんこんなにして…すげー…  
ほんのり汗ばんでで湿り気を帯びて…  
すっかり興奮して…期待しちやってなんだ♡  
お姉さん嬉しい♡」

「あー♡♡♡」

「はあ  
はあ」

「んん…♡」

「お姉さんがお手伝いしてあげるから  
一緒に楽しもうね…♡」

「んん♡  
んん♡

「んん♡」

「んん♡」



「お服もめくっちゃお♡  
うふふ♪体があらわになつて…♡」

「乳首きれいなピンク色してるね♡」

「お見ないで…」

「恥ずかしがってる団長ちゃん…カワイイ♪」

「ふんふん♡」

「ふんふん♡」

「おねだりしてるカワイイお○んちゃんを  
トナレ♪して…♡」

「あう…んっ…お姉ちゃん…お姉ちゃん…ひっ…んっ」

「団長ちゃんかわいい喘ぎ声出して…  
お姉さんも興奮してきちゃっ♡」



「乳首がお留守だからイジメてあげるね♡  
ほー♡おのんちゃん気持ちいいね♪」

「あっ…あっ…♡お姉ちゃんそれ反則…  
もっど…もっど…ままならっ…んっ♡」

「お姉さんも暑くなってきたね…  
上着脱いじやうね♡」

「お姉ちゃんのオッパイから甘い香りと  
汗の匂いが混ざった匂いがして…  
はっはっ♡」

「ごんごん♡団長ちゃんメスドラゴンの  
フェロモン臭に反応してるんだ♡」

「おんがっ…あんっ♡」

「もわっ」

「んっ♡」

「んっ♡」

「んっ♡」

「んっ♡」

「んっ♡」

「んっ♡」

「んっ♡」





「団長ちゃんのお○んちんからエッチなお汁が  
あふれてきたよ♡イヤラシイね♪  
お○んちんシッコシッコしてっばい♪」

「あっ♡はぁーっはぁーっ…ムムムムムムっだに…あうっ…♡」

「おんちんシッコシッコしてっばい♪」

「あっ♡」

「あっ♡」

「あっ♡」

「あっ♡」

「あっ♡」

「あっ♡」

「あっ♡」

「あんっ♡  
団長ちゃんカワイイ♡」

「よく言えたね♡ロリキロリキ♪  
っばい♪ムムムムムムっおんね♡」

「お姉ちゃん…あんっ…お姉ちゃん…  
イツちやう…あう…ああんっ♡」







「団長ちゃん気持ちよかったね♡  
おんちゃん♡いい子♡」褒美にキスしてあげるね♡

「あ♡はあはあ…お姉ちゃんしゅき♡  
おんちゃん気持ちいい♡」

うふふ♡  
団長ちゃん♡

「えへへ♡  
団長ちゃん悦んでくれて  
お姉さんもうれしい♡  
また一緒におんちゃん♡」





































